



# メッセージ

---

---

山城 窓

---

## 「なんで結婚しないの？」

---

※この記事はどっかの都議会でのヤジを擁護するものではありません。  
むしろ、あんなヤジと一緒にしてくれるなという、心の叫びです。

昔、職場の同期の飲み会で、一人の女性に、  
「なんで結婚しないの？」と僕は尋ねた。  
その人は同期で一番モテたし、実際彼氏もいた。  
結婚しようと思えばできなくはないであろう人だった。  
そして結婚願望もあるらしかった。  
でも未婚だった。  
だから「なんで結婚しないの？」と尋ねた。

だけど、その言葉はどうやら彼女を怒らせた。そして同時に傷つけた。  
周囲の人も僕の言葉をセクハラととったようで、なんか引いてた。

僕は世間知らずだったし、未熟でもあった。  
その言葉が人を不快にさせるという可能性が頭になかった。  
だけど、そのときの僕には嫌がらせの意図はまったくなかったし、  
攻撃性も悪質な要素もまるでなかった。

なにより僕はその人のことが好きだった。  
そしてもっと正確にいうなら僕はそのあともこういう会話をしようと目論んでいた。  
「なんで結婚しないの？」  
「男運がないから...」（←このセリフまでは実際に彼女が発したセリフだ）  
「彼氏の経済力の問題だったりするの？」  
「まあ...」  
「年収は最低いくら以上とかって条件ある？」  
「んん.....できたら500万ぐらいあったらいいかなあ」  
「じゃ、オレの年収が500万円越えたら結婚してくれる？」  
「.....え？」

.....改めて書くとバカみたいだけど、  
僕は本当にこういう会話をしようとしていた。  
要するにプロポーズまがいのことをしようとしていた。

だからそれで彼女が怒ったりすることも、  
周りが眉間にしわを寄せることも、  
まったく想定してなかった。  
周りとはもかく彼女は喜ぶとしか思ってなかった。  
僕は彼女が好きだったといったけど、  
彼女も僕が好きだったからだ。

（そう言える証拠はあるのかといわれそうだが、残念ながらその証拠はない。でも、  
少なくともそういう根拠は無数にあるし、もしこれが間違っていたら死ぬと誓えるぐらいの確  
信はある）。

今僕が何をいいたいのか？  
僕はいわばセミプロポーズをしようとしたのに、  
そのことがどうしてセクハラ扱いされないといけなかったのか？  
ということだ。

いわば、悪質なものと表面的になんらかの共通点があったというだけで、  
なぜその悪質なものと同一視されなければならなかったのか？  
それはイスラム系の人をみなテロリストと思い込んだり、犯罪者と同じ名前の人を犯罪者扱いす  
るのと同じだ（要するに差別であり偏見だ）。

できるなら全人類に提案したい。  
言葉に怒るのやめないか？

もちろん怒るようなことをいわれれば怒ればいい。  
でも怒るようなことじゃないのに怒ったなら、  
それはその人にとってもマイナスになる。

もちろん、

「悪意のない言葉には怒らない」というルールが成立したら、それを悪用する人もでてくるだろう。

実際は悪意のある発言でも悪意がなかったことにする、いわゆる正当化する輩が、間違いなく出てくる。

（実際、都議会でもヤジを発した議員はみな、後付けで自己を正当化するような言い訳を並べている）。

ああいう輩には命を賭けさせればいい。

つまり「嘘や誤魔化しで話したなら死ぬ」と誓ったうえで話せと。

あるいは僕がさっき語ったことも正当化ととられるかもしれない。

だから誓っておく。

あのとき「なんで結婚しないの？」といったとき、

僕の頭の中（深層心理や無意識をのぞいて）に、

彼女に対する悪意が、

ほんのわずかでもあったら死ぬと誓う。

念のため深層心理や無意識を除いておいたが、そこを含めても悪意はおそらくゼロだろう。

ただ深層心理や無意識の部分は自分自身であっても完全に把握することなどできない。

本気で命を賭ける以上、そこは除いておくしかない。

でも当時無意識だった部分も、今は多少見えてきてもいる。

僕はあの時緊張していた。好きな人と話すということに。

そういう緊張を解いて、最高のパフォーマンスを発揮するための、一つの方法として、

「相手を飲んでかかる」というのがある。

たとえばワールドカップを夢の舞台とあまりに崇めてしまうと、

その舞台に飲まれて力が発揮できない。

だから逆に、

「ワールドカップなんか大したことない」

あるいは、

「オレはそのワールドカップを勝ち抜くのにふさわしい男だ」

といった具合に思い込んで、その舞台や相手を飲んでかかることで、

最高のパフォーマンスを発揮できるということがある。

そして僕もたぶん緊張を解くために無意識に相手を飲んでかかろうとした。

言い換えると「そんなに大した人でもない」といった具合に相手をナメてかかったのかもしれない。

そしてナメた感じの口調で、「なんで結婚しないの?」といった発言をしたから、相手から見たらそれは馬鹿にしてるように見えたり、嫌がらせのように見えたのかもしれない。

もう一ついうなら、

僕の声はあまり通るほうじゃない。

そしてその時の彼女の位置はテーブルを挟んだ斜め前の席だった。

騒がしい居酒屋で、その彼女に届くように声を強く押し出すように発していたと思う。

その強さが攻撃的なものに見えたのかもしれない。

あと、彼女は「男運がないから」までは怪訝な顔をしながらも答えてくれたが、

そのあとの僕の問いにはもう答えてくれなくて、

そのときの僕には、「なんで答えないんだ?」っていう苛立ちや焦りはあったかもしれない。

(なんせそこで相手がうつむき黙るというパターンはまったく想定してなかった)

そしてなんとか返事を引き出そうとして、

挑発的な言い方になってたのかもしれない。

そしてそれも悪い方にとられることにつながったのかもしれない。

なんにしても.....僕の中に相手が未婚であることを嘲るような気持ちはゼロだったとっていいだろう。

いつか、こういうことを彼女に説明しようと思っていたが、

結局最後までその機会はなかった。

だから今こんなところで書いてる。

他人が見てこのことがどう思われるかわからないけど、

僕にとってはこの問題はあまりに切実な問題だ。

この問題が解決されないと僕はおそらく永久に幸せになれない。

## 「オレ、田舎モンだから」

---

そういえば、「オレ、田舎モンだから」といって怒られたこともある。

前述の女性と同一人物だが、仮に彼女の名をSとしておく。

そのときの職場はビルの36階で、初めてその休憩室で窓の外の景色を見たとき、圧倒されて僕はしばらく見とれていて。そして後にそのことをSに話すと、Sもそうだったといっていた。

で、そのときに僕は「オレ、田舎モンだから」と言った。

つまり「田舎モンで、高層ビルなんかないようなところで育ったから、こんな景色見たことなく、思わず見とれてしまった」といった意味で。いわばちょっとした自虐で、自らを揶揄するように。

これに彼女はムツとした。

推測になるが、高層ビルからの眺めを見て、僕と同じ反応を見せたSも同じように田舎モンだといわれたと思ったんだろう。

これは本当に言うまでもないと思うが、僕にももちろん悪意はない。

Sを田舎モンだと思ったこともないし、そもそも田舎モンを見下してもいない。

僕の通った中学校は三方を田んぼに囲まれていたし、小学校は田んぼと大きな川の堤防に囲まれていた。小学校の朝礼で「下校中に買い食いしないように」といった注意が出た時には、「買い食いするとこなんかじゃないじゃん？」と多くの児童が思うほどに、なんにもなかった。

でもそういうなんにもないことを恥じたことはない。

これは運が良かったからかもしれない。つまり今までの人生でそれを馬鹿にされたり、そのことで見下されたりしたことがなかったから、それを引け目に感じずに済んだということかもしれない。

逆にいえば、田舎モン扱いされて怒る人は、過去にそのことで馬鹿にされたり、見下されたりしたのかもしれない。自分のことじゃなくても、他の誰かが田舎モンだということで見下されているのを見たのかもしれない。どっちにしてもそういう人もそろそろ気づいたほうがいい。過去の悪意の残像を見て、目の前の言葉に過剰に反応しているということに。

もちろん、そうはいつでも自分の心をコントロールするということは誰にとっても簡単なことじゃない。「別に気にすることはない。堂々としてればいい」と言い聞かせても、言い聞かせてる時点で何かはずれたり、堂々としようとすることで力みが生じたりしてしまったり、そんなずれやらかみやらによって、結果的に心のバランスを崩してしまうということもあるだろう。

だからとにかくまずは理解するしかない。

どこに住んでるかとか、どこで育ったかとか、そんなことで人の価値やら地位やらが上がったり

下がったりはしないということ。

例えばだが、僕は高層ビルの窓からの眺めに圧倒されたし、すごいなとは思ったが、決して綺麗な眺めだとは思えなかった。むしろ汚くて狭苦しい街だとも思えたし、子供はのんびりして、広々とした田舎で育てたほうがいいかもしれないとすら思った。こういってしまうと逆に都会の人が気を悪くしてしまいそうだが、要するにここで言いたいのはそれぞれ一長一短で、どちらが上とか下とかじゃないということだ。

「それはSさんも含めて？」

---

引き続きSのことで。

Sは中野区に住んでた。で、あるときSはこう言った。

「中野は変な人多いから」

で、僕はこう尋ねた。

「それはSさんも含めて？」

僕としては、彼女の軽いノリツッコミのような反応を期待していた。

つまり彼女が「そうそう...って違うよ！」といった具合の。

だが実際の彼女の反応は「私は違うけど」と氷のような目ですごむといったものだった。

Sは変人扱いされたことについて怒ったんだろう。

が、例によって僕に悪意はなかった。

僕は、変わっているということ自体は悪いこととは思ってないからだ。

例えば小泉純一郎は変人だった。変わり者で、空気を読めない人だから、

それまで誰も言い出せなかった北朝鮮の拉致問題を、北朝鮮の首脳に対して面と向って言い出せた。

イチローも変人だ。相当のひねくれ者だから、常識にとらわれず、新しいスタイルを編みだして貫いて、前人未到の領域に踏み入ることに成功した。

中川翔子なんかも変人だ。中川翔子が普通なら、あのビジュアルであそこまで売れることもなかっただろうが、変だからこそそれが魅力となって人気を得ることもなった。

そしてSも中川翔子と同じパターンだ。ビジュアル的にSよりもっとかわいい人は職場にいたが、Sのほうがモテてたりもしてた。変であることは間違いなくSの魅力の一部だった。

僕はだからそのとき、こういう説明をしようともしていた。彼女が軽く怒ったとしても、

「いやいや、これこれこういうわけなんだよ」と、いった具合に。

だが彼女の怒りは軽いものではなかったし、そのあと、我を忘れてしゃべり倒すといった感じだったから、その隙はなかった。

思うに、言葉に対して怒る人は、そのあとの相手のフォローやら褒め言葉やらを自分で封じ込んでしまうということがよくある。

だから怒る前に話したほうがいい。

怒った後はまず話にはならないから。

何故怒れば話にならないか？

例えばSが怒りながら何か僕に言ったとすると、

僕はその圧してくるような怒気に反応して、そこから身を守るため、それをまた押し返すような話し方になる。そしてSはその押し返すような感じを自分への攻撃のように感じてまた怒気を込めて言い返すという形になる。そうなるといわゆる売り言葉に買い言葉のような感じで、ほとんどケンカのようにしかない。

加えていうなら、力を込めて話すと精度が犠牲になる。イチローでもホームランを狙えば打率が落ちるように。それによつて的確な言葉を選び損ねたりもするし、相手の言葉を正しく理解できなくなったりもする。わかり合うためにはこの上なく正確さが必要になるが、そんなときに精度を犠牲にするような真似していたら、当然わかり合うことなんてできない。

だから僕はよく思う。「怒るんなら話をすべて聞いてから、好きなだけ怒ってくればいい」と

。

## 大前提として

---

どう考えても余計なお世話だろうけど、これは全人類に言いたい。  
人間関係のほとんどのことは、ちゃんと向き合って全部ぶっちゃけて話し合えばたやすく解決できる。

逆にいえばそれをしないなら、ほとんどのことは解決しない。

これがすべての前提といってもいい。

人間関係がうまくいくための本を読んだり、卓見に富んだ人に相談したりしても、  
これがなされなければ、問題は解決しない。

患者と向き合って診断をきちんとするということをせずに、薬をいきなり処方しても、  
症状が改善しないのと同様に（それでうまく治ったとしたら、それはただのまぐれだ）。  
いや、改善しないばかりがむしろ悪化することもあるだろう。

だからこそ.....僕は陰口が大っ嫌いだ。

陰口の問題点は次に述べる。

## 陰口の問題点①

---

思えば若いころ、十代のころぐらいは陰口が大っ嫌いだった。

でも社会に出て、日々のストレス発散であったり気晴らしであったりで、多くの人がいわゆる陰口を普通に言っていて、それもある程度仕方ないかとも思ったりもした。

だが今改めてそれは間違いだったと思う。陰口の問題点は、そんなふうに見過していいようなものではないと気づいたからだ。

と、ということで陰口の問題点を述べようと思う。

例えば本人の前でも言っていることや、本人の前で言えるようなことを、本人のいないところでいうのは別にいいだろう。

問題はそうではない場合だ。

本人のいないところでだけ言われる陰口は、

そこにある思い込みや誤解が訂正される機会がない。

実際は何も悪くない人がただの思い込みで悪くいわれて、そしてそのまま悪い人ということになってしまうということがそこでは起こる。

そしてその場にいる人は、その人が悪い人だと認識して、その人を避けるようになる。いわばそこでは人間関係を第三者に破壊されることになる。何の問題もなかったはずの交流関係がそこでは断ち切られる。

もっと、くだけた言葉でいったほうがいいかもしれない。

これから仲良くなれるかもしれないと思っていた人に、まっとうな理由は何もなく避けられ怯えられることにもなる。

経験からいうが、それは震えるほど悔しくて、でも怒りのやり場もなくて、ただ苦しくてつらいものだ。

誤解を解ければいいが、避けられることでその機会はないし、そもそもすべて陰で話されているなかでは、だれが何をどう誤解しているのかもわからない。

このことこそが陰口の最大の問題点といってもいいが、次に述べる問題点も被害の大きさという点では、決して軽いものではない。

## 陰口の問題点②

---

次に述べるのは、陰口が生む怯えの問題だ。

例えば誰かがAという人の悪口を陰で言っていたとする。

その場合、その人はAに出くわすと怯える。

それを見ると、周囲の人はAが何かをしたかのようにも思う。そんなふうに誤解が生じてしまう。

でも問題はそれだけではない。

怯える者というのは、自分を守るための本能なのか、攻撃的な気を放つ。

そしてその気を受けた者は、心に損傷を受ける。

「心」や「気」という言葉を使っているが、これは別に抽象的な話ではない。

現在の科学ではまだ証明されていないから、「恐らく」というしかないが、

怯える者はその対象に目には見えないが攻撃をしている。

そしてその攻撃を受けたものは、自分の内部に損傷を受ける。

これがどれほど理不尽なことか。

陰で悪口を言っていて、会えばさらに攻撃してくる……

いわば罪に罪を重ねる行為だ。

そしてこれは陰口を言っていた本人だけのことじゃない。

陰口を聞いていただけの人も、Aに出くわすと怯える。

そして同じように怯えることによって、攻撃的な気を放つことにもなる。

ここでの問題はその攻撃的な気だ。

だからこれを読んで、「とにかく怯えないように」という意識で怯えを隠すために、強がったり、威圧的になったりするの、もちろん愚だ。

そもそも後ろめたいことがあるから怯えるわけだから、それを解決するためには、その後ろめたいことをすべて話して謝って改めていくしかない。

怯えを隠すために平静を装ったりして、それで何かが解決するわけもない。

加えていうなら、怯えの反応を見せた後に、次からは平静を装って見せたとして、その前の怯えがなかったことになるわけもない。

## 「言葉に怒らないほうがいい」ということについて①

---

前に述べた「言葉に怒らないほうがいい」という主張について補足する。

そもそも言葉というのは記号でしかない。

つまり何の意味も持たない記号に無理矢理意味をくっつけたものだ。

いわばそれ自体は元々まったく無害なものだ。

だからその言葉に悪意がくっついてれば怒ればいいと思うが、

悪意がくっついてないなら、まったくゼロのものに対して怒る理由など本来ない。

いうなれば悪意のない言葉に怒りを持ってしまうのは、脳の誤作動ともいえる。

が、そういうことは多くの人にしばしば見られる。

例えばコンプレックスを抱えている人は、それについて触れられただけでダメージを受けたりもする。

「結婚」のこと、「体型」のことなんかで。

そしてダメージを受けることだから、身を守るため攻撃的になったりもする。相手に悪意がない場合であっても。

これはちょうどアレルギーに似ている。

花粉自体はもともと無害なものだが、花粉症の人にとっては忌み嫌われる存在だ。

卵アレルギーの人にとっては、卵も「毒」に等しいものだろう。

だが、これは卵アレルギーの人にとっては、だ。

卵はもともと美味しくて栄養も豊富で素晴らしい食材だ。

だから例えば僕が誰かに卵料理を差し出したとする。

それに対して、卵アレルギーの人が怒ったとする。

そのとき、「なんでこんな酷いことをするんだ？」とまるでこっちが毒でも盛ったような言われ方をされたら、こっちからしたら意味がわからない。

「なんでそんな悪人扱いされないといけないんだ？」とこっちが怒ることになり、

あとは不毛な口論にしかならない。

「卵アレルギーの人もあるから、気をつけたほうがいいよ」と注意するならこっちも話はわかる。

「ああ、そうか、気をつけないといけないかな」といった反省はできるから、そこから先はわか

り合う方向に進む。

さてどちらを選ぶべきか？

いきなり攻撃して、戦争を始めるのか。

それとも話し合ってわかり合う方へ進むのか。

答えは明白だろう。

## 「言葉に怒らないほうがいい」ということについて②

---

そして問題は悪意があるかないかということになっていくが、

基本的にはそれがあつかないかを判断する方法なんかない。

あるいは、長年連れ添って、その人にどういう傾向があつて、どういうときにどういう気持ちになって、どんな態度を取るかといったことまで把握していれば、「ああ、今のこの言い方は悪意あるな」という見当はつくかもしれない。

それほど長い付き合いでなくても、力みまくって声をぶつけてくるような話し方をする人もある程度わかるかもしれない。

でもそうした場合でも100%確実とはいいがたい。

まして、そういう場合でなければ、ほとんど判断を付けようがない。

そもそも言葉は記号であるから、その人がそれをどういう意味、意図で言っているかを判断するには、その人の頭の中、心の中までも見抜かないといけないうし、超能力でもないそれを成しえることはできない。

例えば「やばい」みたいに良い意味でも悪い意味でも使われる言葉は、その言葉だけでは意味を掴めなかつたりもする。まだ「やばい」の場合は、まったく逆の意味で使われているということが、ある程度知れ渡っているから、推測は可能かもしれないが、なんらかの言葉がまったく逆の意味で初めて使われる場合なんかは、その意味なんかそうそう理解されるものじゃない。

まず大事ななのは、自分がその言葉から受け取った「意味」は、相手の発している「意味」とイコールではないということだ。これが意外と多くの人気が付いてなかつたりする。

そしてそのことに気づいてない人は、例えば相手が嫌味を言っているように見えるというだけのことで、相手が嫌味を言っていることにする。で、例によって相手に一方的に怒りをぶつける。真実がどうであるかはそこでは無視されている。

それは「星や月が地球を回ってるように見えるから、星や月が地球を回っているのだろう」とするようなものだ。

それ以外の可能性を考えるとすることができないから、そう決めつけてしまうんだろう。

重要なのは無知の知だ。

断わっておくが、「自分が何も知らないということを自分は知っている」と言ったからって、無知の知を体得していることにはならない。

真に無知の知を体得すれば、ジャッジをしない。ボールを見てない人や見えてない人がストライクだ、ボールだとジャッジのしようがないように、自分が何も知らないと真に知っていれば、あれは良いとか、悪いとかという判断は下せない。もっというなら感情が発動することもない。怒るべきことかどうかわからないとわかっていけば、怒れるわけもないのだから。

### 陰口の問題点③

---

すでに書いている陰口の問題点のつづきを書く。  
ただつづきといっても内容、性質は少し異なる。  
いわばあれを読んだあとにさらに罪を重ねている者への言葉となる。

なんらかの後ろめたいことをして、誰かに被害を与えていながら、そのことを問い詰められることを恐れて、  
ちゃんと向き合って話す機会が生じないように、こそこそと卑怯に逃げたりごまかしたりしている腐った人間へ告げることになる。  
誤解が生じないように、それが誰かを明確にしておく。  
実名は出さないが、女性の〇村だ。  
ことわっておくが、本来はここでこんなことを書きたくはない。  
だが、この人間が誤魔化しつづけているからしょうがない。  
すでに時間は充分くれてやった。

言っておくが、俺は今ここでその人間を攻撃しようとしてるんじゃない。  
俺はただ真実を守りたいだけだ。真実さえ守られればあとは真実が俺を守ってくれる。  
俺には後ろめたいことや、やましいことがまるでないからだ。それもまったくのゼロという嘘になるかもしれないが、それは限りなくゼロに近い。比較が許されるなら、俺は平均的な人と比べて、後ろめたいことが少ない人間だ。少なくともちゃんと真剣に誰かと向き合って話すとなったときに、それでもまだ口に出せないほど後ろめたいことはないし、まして、それを言わないと、誰かがずっと苦しむということなら、俺は絶対それをごまかさず話す。  
〇村のような人間とは根本的に違う。

そもそもちゃんと向き合って全部ぶっちゃけて話し合えば必ず解決するような問題で、  
逆にいえばそれをしないなら絶対に解決しないような状況で、  
どうして解決しないほうを選べる？  
どうして誰かが苦しむほうを選べる？  
そっちを選んでは十分腐ってる。

ただ自分にとって都合が悪いというだけのことで、  
真実をちゃんと話さず、姑息に誤魔化し続ける、そんな北朝鮮のような真似が、  
どれほど鬱陶しいことかは、

この国の国民ならわかりそうなものだ。

恐らくは「こういうことにしておこう」的な誤魔化しで正当化しているんだろう。

(この人間は「こういうことにしておこう」的な誤魔化しが普段から恐ろしく多い)

そこでどんな理屈を用いているのかは知らないが、

それもちゃんと把握できれば、

その言い分の何がどう間違えているのかを納得のいくように説明できる。

なんなら「ああ、そうか私がおかしいな」「そうか、私は腐っているな」と本人が納得するところまで、

わからせてやる。

もしも自分が正しいというなら、それを納得させてみろ。

いっておくが、相手の言い分をすべて引き出さないとその相手を納得させることはできない。

すぐに口論になって相手を黙らせようとする人間が結構多くいるが、

相手を黙らせてしまったなら、その相手を納得させることなどできない。

(相手を黙らせようとする人間はベクトルが最初から真逆だ)

そういう意味でも、ちゃんと向き合って全部ぶっちゃけて話すということが絶対に必要になる。

この文章を読んだら、

もしかしたら腹を立てるかもしれない。

だがおまえに怒る資格なんかない。

念のためいっておくが、自分が悪くないことにするために、相手に問題があることにするような、いわば罪に罪を重ねるような生き方しかできないなら、もう死んだほうがいい。腐り過ぎだ。

これは他の人への言葉になるが、

〇村が俺のことについて何か言っていたとしても、

それを真に受けなくてくれ（これについてはO村のいうことに限ったことではないが）。

俺のことについては俺に聞かないと確かめることはできない。

当然といえば当然だが、俺のことを説明できるのはこの世に俺しかいない。

## 陰口の問題点④

---

つづける。

そもそもだ。

壁や床に怯える者がまともではないように、

俺に怯えている者はまともな人間ではない。

そこにはそうな理由が存在していないのだから。

だからこそまず俺に怯えているものは、俺に後ろめたいことがある人間だと考えられる。

もしそうじゃないというなら、おまえは単なる異常者だということになる。

それでいいのか？

異常者じゃないということを証明したいなら、その後ろめたいことを語るしかない。

「こういうことにしておこう」的な誤魔化しはもちろん認められない。

真実を語るしかない。

そもそも永久にそんな生き方をしていくのか？

はっきりいうなら、真実を語ることは誰にとってもプラスしかない。

あるいはもともとは、こっちが「なんだそんなことか」と思って流せる程度のことだったかもしれない。

もともとそんななんでもないようなことだったのを、わざわざ許しがたいものになっているのかもしれない。

あるいは、もともとから、そんな簡単に流せるようなことではないのかもしれないが、

もしもそれほどのことをしているなら、それこそちゃんと謝れよ。

とりあえずO村の場合があからさまだから、限定して話しているが、

他にも、後ろめたいことがあって、それゆえに怯えて、さらにそのことをごまかしているような人間はさっさとすべてを語りに来い。

これは立場がSVであっても、管理者であっても、その他であっても変わらない。

どんな立場であれ異常者は異常者だし卑怯者は卑怯者だ。

ばれなけれどどれだけ腐った真似していてもそれでよいとでも思ってるのか？

一人で来るのが怖いなら、何人つれてきてもいい。

そもそもそんな卑怯な生き方してる時点で雑魚だし、

雑魚は何人集まっても雑魚だ。

まとめて相手する。

※以上はすべて平成27年4月以前に書いたものです。

さっそくですか本題に入ります。

真実を語ってください。

嘘や誤魔化しで話すような真似をしないでください。

そもそも誤魔化せていると思ってるんですか？

どう誤魔化しても、こっちは、「ああ、こうやって誤魔化すのか」と思って聞くだけです。

あなた自身もちろん自分が誤魔化していることは当然わかってるはずですよ。

そんなバカバカしいことを今後もしていくつもりですか？

あなたは後ろめたいことのある人が見せる怯えの反応を見せてます。

平静を装ってそれを隠せるようになったとしても、その前の怯えがなかったことにはなりません。

頭のいいあなたはそれぐらいわかるはずですよ？

その怯えの原因となっているものがなんなのか僕にはわかりません。

陰口と呼ぶべきものなのか、なにか悪い噂なのか、その他の何かなのか知りませんが、怯えの原因になる、僕についての何かしら良くないことが、あなたたちの間で語られています。そうした事実が何もないなら僕は死ぬと誓います。

もしこれを否定するんなら、あなたも命を賭けてください。

それがフェアネスというものです。ハナからアンフェアな人間とは永久に話になりません。

つまり卑怯なことを封じるために、命を賭けています。

なので命を賭けるという行為を否定するような卑怯な真似はしないでください。

こっちもやりたくてやってるわけではないのです。

卑怯者たちが、僕にそこまでさせるのです。

忠告になりますが、命を賭けて誓ったことを破ったなら、人によっては本当に死ぬこともあるでしょう。

良心があることが前提になりますが、あなたには良心があると期待してます。

そして良心があれば罪の意識から、健康を害することもあるでしょう。

すぐに死ぬことはなくても老化や衰弱が早まって寿命が削られることもあるでしょう。

本来の寿命より早く死ぬことになれば死ぬときの痛みも大きいものになります。

階段を最後の一段まで降りて飛び降りるのと、まだ七、八段ぐらいあるところから飛び降りるのとでは、衝撃が違うように。

「悪いことをしていると死に際苦しむことになる」というのは、宗教的、道徳的な話のようで、理論的、科学的な話でもあるんです。

そしてその苦しみのなかで後悔しても遅いんです。  
言っておきますが、あなたには苦しんでほしくはないです。

簡単な話なんです。

真実を語ればいいんです。

裏で語られていることがどれだけ見当違いでも、聞かないとこっちは正しようがないんです。  
その真実が語られない限り、問題は解決しえないし、問題が解決しないかぎり、僕は永久に苦しむことになります。

あなたは問題を解決しないほうを選ぶんですか？

誰かが苦しみつづけるほうを選ぶんですか？

加えていうなら、誤魔化されてしまうと、こっちが被害妄想だということにもされかねません。  
そうやって人をさらに苦しめるほうに進むんですか？

そもそも誤魔化す意味がありますか？

裏で語られていることは本来、僕にはわかるわけもない。

わかるわけもない僕が命を賭けて、わかっているはずの人たちが命を賭けれない。

その事実がすでに、どちらに正しさがあるかを映し出しています。

さらにいうなら、すべてではないですが、教えてくれている人もいます。

いわば、もうネタはあがってるんです。

そして誤魔化してもその場をしのげるだけです。

その場だけしのいでも、人生を、誇りを、ことによれば命を、損なうことになります。

それでも誤魔化し続けますか？

知ってるでしょうか？

これから親しくなれるかもしれないと思う人に怯えられたり避けられたりするのには深く傷つくことだということを。

それが自分の問題であれば仕方ないですが、第三者によってそうやって人間関係を破壊されるのは、この世の中にいるのが嫌になるぐらいに苦しいことです。

僕には至らぬ点は多々あるでしょうが、そこまで苦しまないといけないようなことは、してるわけがないと思っています。もししているというなら、教えてもらいたいものです。

言っておきますが、自分を正当化するために、相手に問題があることにするような卑怯な真似は

しないでください。そんなふうに罪に罪を重ねていくような生き方しかできないのなら、もう死んだほうがいいです。腐り過ぎですから。

これも言うておきますが、あの責任者はすでにそれに該当してます。

もし神様がいたならば、あの責任者は地獄に落ちるでしょう。

あなたも一緒に地獄へ行くつもりですか？

あの責任者はこっちが核心に迫ろうとすると、高圧的にもなりましたし、攻撃的にもなりました。

言ってることも無茶苦茶になりました。

破綻が多すぎるので、それについては後の項に分けて書きますが。

とりあえず一つだけ言うておくと、あの男はこっちの言うことをちゃんと理解できてませんでした（あるいはまったく理解してない可能性もあります）。

なのであの男が言うことをそのまま真に受けないようお願いします。

というか、僕についてのことは、他の人のいうこともそのまま真に受けないでください。

僕のことを説明できるのは、この世に僕しかいませんから。

恐らくですが、真実を語ることが、あの責任者を裏切ることになったとしても、あなたがペナルティを受けることはないでしょう。

もちろん、あれぐらい腐った責任者であれば、あるいはペナルティを与えることもありえるかもしれせん。

でももしも誠実であろうとしたあなたにペナルティを与えるような腐った職場なら、そのときはもうこの職場にこだわる必要もないとは思いませんか？

どうせ夏ごろには終わる可能性のある職場です。

それにあなたは優秀な人材です。

どこに行ってもやっていけるでしょう。

それに経験的にいって、よそはもっとまっとうな職場です。

もしどうしても今真実を言えなかったとしたら、せめて辞めるときに真実を語ってってください。